

都市みらい通信

IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development

平成14年8月

(財)都市みらい推進機構

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> まちづくり情報
・清水駅周辺整備事業について | <input type="checkbox"/> 都市みらいカレンダー
・土地月間コンペ「第1回実行委員会」開催 |
| <input type="checkbox"/> トピックス
・土地月間シンポジウム開催
「低・未利用地の有効活用促進方策を
考える」 | <input type="checkbox"/> 横浜ベイサイドマリーナ
・2期地区開発事業提案募集のご案内

<input type="checkbox"/> 大塩理事長死去 |

平成14年8月31日

□まちづくり情報

清水市は、来年4月に静岡市との合併を控え、また、その2年後には新市の政令指定都市への昇格を目指しております。清水駅周辺地区は、新市の中核の一つとしての役割を果たすことが求められている地区です。

当地区は、現在、平成15年度の「NEW!!わかふじ国体」開催に向け、JR橋上駅舎化と東西自由通路が姿を見せつつあります。

当財団では、旧国土庁による平成12年度低・未利用地有効活用促進臨時緊急調査の対象地区として清水駅北東地区に関わり、その後も平成13年度、14年度と継続して土地利用転換調査による同地区のまちづくり構想策定のお手伝いしております。

(開発調査部 調査課長 松山)

清水駅周辺整備事業について

清水駅周辺整備事業は、「海・ひと・まちが共存する国際海洋文化都市」の実現を目指すプロジェクトとして、駅東地区の新市街地の創出と駅西地区の既成市街地の再生を図ると共に、東西の市街地を自由通路で結び、活気と魅力に満ちた人に優しい回遊性のある一体的な都心づくりを推進するものであります。

事業概要としましては、

- ・清水駅東土地地区画整理事業

旧国鉄貨物ヤード跡地等を活用し新たな臨海部の市街地を創出するため、市施行により区域面積7.2haを平成6年度から平成18年度に、平均減歩率約41%（公共減歩率約37%、保留地約4%）の計画で、概ね建物移転も完了し工事を実施しております。

公共施設としてましては、勤労者総合福祉センター、市営立体駐輪・駐車場が完成し、

駅前広場、イベント及び多目的広場等を順次整備していく計画であります。

・清水駅東西自由通路・橋上駅舎・歩行者デッキ整備事業

駅東西地区の一体化と臨海部へのアクセス向上を図るため、「まちづくり総合支援事業」によりバリアフリー機能も導入し、JR橋上駅舎化と併せて東西自由通路（延長93m、幅員8m～12m）と歩行者デッキ（延長130m、幅員4m）を平成12年度から平成16年度に整備を予定しております。

・清水駅西土地区画整理事業

JR貨物ヤード跡地等を活用し交通結節機能の向上と中心市街地の再生を図るため、市施行により駅前広場の拡張も含め区域面積4.3haを平成15年度から平成24年度に、公共減歩率約35%（減価補償後約20%）の計画で、平成14年度に都市計画決定を目指しております。

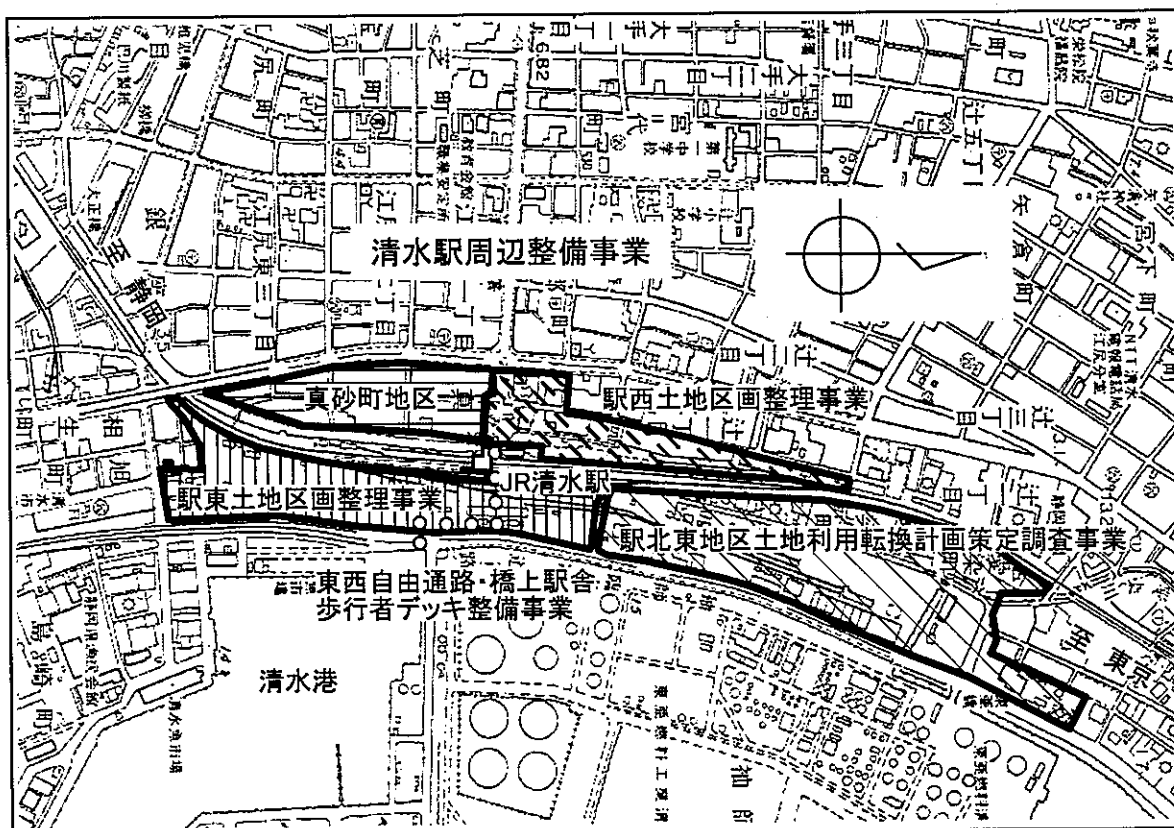
・真砂町地区再開発事業

駅前銀座通りを中心とした真砂町商店街地区面積5.4haの再生を図るため、市街地再開発事業等の地元準備組織を支援し、賑わいと活性化が創出できるまちづくりを目指しているところであります。

・清水駅北東地区土地利用転換計画策定調査事業

駅東土地区画整理事業地域に隣接し、石油関連施設用地を含む11haの工業地域に、新たな臨海部の市街地を創出する可能性を求め、旧国土庁による「低・未利用地有効活用臨時緊急調査」を基に、平成13年度から2箇年で産業構造転換に対応した土地利用転換基本構想を策定中であり、今後民間開発事業を積極的に支援誘導し、駅周辺整備と連携した都市再生の実現を目指した事業化を図っていく考えであります。

（寄稿：清水市都市部駅周辺整備課）



□トピックス

土地月間シンポジウム開催

『低・未利用地の有効活用促進方策を考える』開催について
—まちづくり活動が都市の再生を刺激する— (ご案内)

我が国では、近年の経済社会構造の変化により、地方都市における中心市街地の空洞化や臨海部における大規模工場跡地の発生等、都市空間の活用に関わる問題が山積しており、これに対処するため、都市内において生じた低・未利用地を有効活用して都市の再生を図ることが求められています。

低・未利用地の有効活用を進めるにあたっては、適切な現状把握や将来の土地活用動向に関する分析はもとより、地権者の低・未利用地活用に関する参画と円滑な合意形成、まちづくり関係者による有効活用に関する積極的提案や支援など、初動期段階におけるまちづくり活動が特に重要となっています。

本年のシンポジウムは、特に「低・未利用地の有効利用を通じた都市の再生に対するまちづくり活動の積極的役割」について焦点を当て、土地有効利用にかかわる専門家の方々によるシンポジウムを下記のとおり開催いたします。

今回の討論をとおして、低・未利用地の有効活用促進の方策について、皆さまのご認識を深め、今後の地域整備・まちづくりのご参考になればと考えております。

ぜひ、皆様のご参加をお待ちしています。

記

日 時：平成14年10月15日（火）

PM 1：30～PM 4：30（開場：PM 1：00）

会 場：全日通霞ヶ関ビル 8階大会議室（定員200名）

（東京都千代田区霞が関3-3-3 TEL：03-3581-2261）

内 容：●国土交通省における低・未利用地の有効利用に向けての取組み

講師 釜谷 智弘（国土交通省土地・水資源局土地利用調整課 企画専門官）

●パネルディスカッション

「低・未利用地の有効利用に対するまちづくり活動が都市の再生を刺激する」

コーディネーター

◇高見澤 邦郎（東京都立大学大学院建築学専攻 教授）

パネラー

◇西郷 真理子（㈱まちづくりカンパニー・シープネットワーク 代表取締役）

◇藤原 恵洋（九州芸術工科大学芸術情報設計学科 助教授）

◇中村 瞳美（津軽こみせ株式会社 黒石市TMO）

◇釜谷 智弘（国土交通省土地・水資源局土地利用調整課 企画専門官）

主 催：(財)都市みらい推進機構

後 援：国土交通省、都市基盤整備公団、地域振興整備公団、(財)民間都市開発推進機構、

（予定）(社)経済同友会、日本商工会議所

入場料：無料

※開催案内は、財団会員窓口担当に送付します。また、財団ホームページにも開催案内を掲載しますのでそちらを参照してください。

URL = <http://www.toshimirai.or.jp/>

都市みらいカレンダー

*印のある項目については、他ページに解説があります。

財団

月	日	項 目	備 考
8	5 6 9 29	*土地月間コンベ実行委員会 都市空間需要調査研究会 仙台市“あすと長町”施設立地研究会 ・環境負荷軽減システム分科会 ・都市型居住促進分科会 笹島地区サテライト事業共同事業者募集説明会	第1回 第6回 第1回 第1回
9	4 5	まちづくり懇談会（地方公共団体会員対応） テーマ：「都市開発における不動産証券化」 プロジェクト説明会（横浜赤レンガ倉庫）	第1回 第2回

インテリジェントシティ整備推進協議会

8	1 8	熊本駅周辺整備事業懇話会出席 幹事会（IT特区関連研究会準備）	
9	2 12	幹事会（IT特区関連研究会準備） 継続セミナー「都市再生の為にキラメガソフト」	第1回

地方の拠点まちづくり協議会

8	26 26 29	参謀会議 あり方研高崎現地ワーキング あり方研上越現地ワーキング	
9	12 中旬	継続セミナー「都市再生の為にキラメガソフト」 参謀会議	第1回

都市地下空間活用研究会

8	2 5 7 8 22	大阪分科会幹事会 中心市街地と地下街のあり方分科会幹事会 中心市街地と地下街のあり方分科会 都市交通施設分科会（幹事会） 都市交通施設分科会（幹事会）	第19回
9	2 5 6	中心市街地と地下街のあり方分科会（八重洲地下街） 都市交通施設分科会 中心市街地と地下街のあり方分科会（WG2）	第5回

土地月間コンペ「第1回実行委員会」開催

8月5日（月）第1回実行委員会を東京都立大学大学院高見澤教授を委員長として、当財団会議室において開催し、次の内容が審議され合意に至りました。

- (1) コンペ課題地を神奈川県海老名市とする。
- (2) 名称を「低・未利用地の有効活用提案競技」とする。
- (3) スケジュールについて
 - ①応募登録期間（平成14年10月1日～10月31日）
 - ②質疑受付期間（平成14年10月15日～11月15日）
 - ③作品提出期限（平成15年1月20日～2月14日）
 - ④審査結果発表（平成15年3月20日）
 - ⑤表彰式は、平成15年の土地月間期間内に開催する
- (4) 実行委員会委員による「課題地現地見学会」を8月21日（水）に開催する。

今後、会員の皆様にはコンペ募集案内を送付します。また、財団のホームページにも詳細の掲載をする予定です。ぜひともご検討くださるようお願いします。

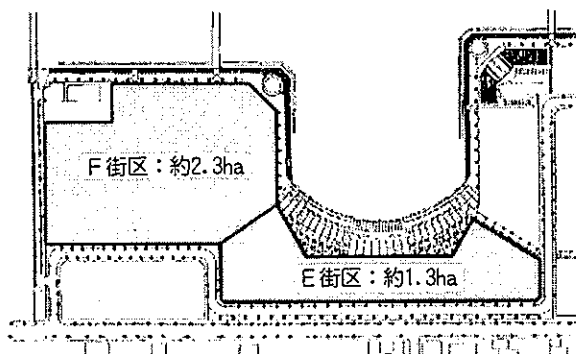
横浜ベイサイドマリーナ：2期地区開発事業提案募集のご案内

横浜ベイサイドマリーナ地区は、横浜市金沢区白帆の日本最大級のマリーナに面して、アウトレットモールやレストランなどの多彩な施設が立地し、大勢の来街者で賑わっております。横浜市では、この地の優れたロケーションなどを最大限に活かし、魅力的な海洋性レクリエーション拠点にすべく、隣接地（1.3ha & 2.3ha）の分譲計画を進めておられます。当財団でも本プロジェクトの事業化を側面支援しておりますので、ご関心のある方は、下記までご照会ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/port/general/bayside/dai2ki.html>

横浜市港湾局臨海事業部事業管理課 045-671-7341 担当 中野・三宅

(助)都市みらい推進機構 企画調整部長 篠原 03-5976-5860



理事長 大塩洋一郎氏（77歳）は、病氣療養中のところ8月27日に死去されましたので、謹んでお知らせ致します。

— あとがき —

シンコペーション (Syncopation) の意味を調べると (音) 切分音 強拍、弱拍の位置を変えリズムに変化をつけることある。たしかアメリカの作曲家アンダーソンの作品にシンコペイテッド・クロックという時計を主題にしたポップス的なクラシック音楽がある。一度は耳にしたことがあると思う。シンコペーションの代表的な音楽といえばジャズであり、ボサノバである。ドラムの拍子のとり方がまさしくシンコペーションである。耳を澄ますと、日本の祭囃子もこれまた正統派のシンコペーション音楽である。旋律 (メロディ) をつかさどる笛の音の裏で太鼓が強拍、弱拍の位置を変えて拍子を取っている。

今、NPOについて財団法人あしたの日本を創る会 (1955年に設立された新生活運動協会82年に改組) が1999年3月に出した「NPO (主に市民活動団体) に関する研究報告書」を読み直している。3年前の出版なので多少古くなっている気はするが系統的に把握するには大変良い報告書である。

音楽の話に戻る。音楽は第1楽章 (主題 テンポはアレグロ) 一起、第2楽章 (主題の展開 モデラート) 一承、第3楽章 (趣を変える プレスト) 一転、第4楽章 (主題に戻る アレグロ) 一結が一般的であり、聞いていて心地よいものが大多数だ。

行政-NPO-市民活動の関係で、行政-NPO、NPO-市民もタイミングを見ながらお互いに拍子の強弱を変えて活動するのなかなか心地が良いように思うがどうだろう。 (M. A.)

発行

財団法人 都市みらい推進機構

〒112-0013

東京都文京区音羽2-2-2 アベニュー音羽3階

TEL : 03 (5976) 5860

FAX : 03 (5976) 5858

kikaku@toshimirai.or.jp

<http://www.toshimirai.or.jp>